

【ジェンダー論講座・前期】

◆科目名：ジェンダーと文学 a

Gender and Literature I

◇副題：フェミニズム/ジェンダー文学批評

◇概要：フェミニズム/ジェンダー文学・文化批評の歴史の流れ、用語を知り、多様な他者の文学・文化解釈を読み、議論することを通じて文学・文化分析に必要な思考の柔軟性を訓練する。

The course of a History of Feminism/Gender Literary Criticism aims to help students achieving a good understanding of the academic history of feminism/gender literary criticism as well as their research methods. Moreover, students will enable to understand and respect other's way of thinking. Reading and discussing the articles of literary criticism will be the main part of this course.

◇担当教員：星野幸代 (HOSHINO Yukiyo)

◇開講時限：前期木曜 4 限

◇教室：(後日公表する時間割表で確認して下さい)

◇目的・ねらい：

一、基本用語・概念の理解：フェミニズム/ジェンダー論・文学・文化批評の分野で基本となる専門用語、概念を理解する。

二、研究史理解：フェミニズム/ジェンダー文学・文化批評史を知る。

三、運用能力をつける：実際に如何にして「一」を援用し、「二」を踏まえてフェミニズム/ジェンダー文学・文学批評分析を展開していくのか、日本・欧米文学を研究対象とした論著・論文を読解し、その方法を学ぶ。

四、多元的理解：フェミニズム/ジェンダー論を介して多様な他者の文学・文化解釈を受容し、討議することを通じて、文学・文化分析に必要な思考の柔軟性を訓練する。

◇履修条件等：特になし

◇講義内容：初回ガイダンス 前期の授業全体について説明

(1) ウォーミング・アップ・ディスカッション

映画『彼らが本気で編むときは』 荻上直子監督 2017、日本第二週目にディスカッション・ポイントを示したレジュメにそって鑑賞します。その後メールでショート・レポートを提出して下さい。第三回はそれをもとに討論します。

(2) 理論書、論文読解及びディスカッション

受講者はそれぞれ担当日(担当順)と担当テキスト(「教科書・参考書等」

に挙げるテキストから自由選択)を決め、以下の要領で授業に加わります。

担当者の役割：①レジュメを作成して配布 ②40分前後で発表する。

レジュメ作成のポイント：①論旨概要を節毎にまとめる。②論旨理解の上で重要な作家、作品、理論のうち解説が必要と判断したものについて簡単に説明を附す。③自分の疑問点・意見、皆で議論したい点をディスカッション・ポイントとして2点以上提示。

◇教科書・参考書等：

ヴァージニア・ウルフ「女性にとっての職業」「女性の知性」「女性と余暇」『女性にとっての職業』出淵敬子・川本静子監訳、みすず書房 1994

ギルバート&グーバー「II 文章の中の病い—女性作家と書くことへの不安—」『屋根裏の狂女』山田晴子、菌田美和子訳、朝日出版社 1992

エレイン・ショウォルター「荒野のフェミニズム批評」『新フェミニズム批評』青山誠子訳、みすず書房 1999

アドリエンヌ・リッチ「わたしたち死者がめざめるとき」『嘘、秘密、沈黙。』大島かおり訳、晶文社、1989

矢口朱美『灯台へ』にみる「母」としての労働者と子どもの観察運動

松永典子「フェミニズムの戸惑い—第二波フェミニズム前後の「働く」女の「自伝」日本ヴァージニア・ウルフ協会『終わらないフェミニズム—「働く」女たちの言葉と欲望』研究社 2017

河野真太郎「『アナと雪の女王』におけるポストフェミニズムと労働」

「『千と千尋の神隠し』は第三波フェミニズムの夢を見たか?—アイデンティティの労働からケア労働へ」『戦う姫、働く少女』堀之内出版 2017

岩淵宏子「母性幻想の終焉—角田光代『八日目の蝉』にみる母と娘」水田宗子ほか『現代女性文学を読む 山姥たちの語り—フェミニズム/ジェンダー批評の現在』アーツアンドクラフツ 2017

黒岩裕市「〈性の多様性〉を問いなおす—よしもとばなな『王国』シリーズ」『ゲイの可視化を読む—現代文学に描かれる〈性の多様性〉?』晃洋書房 2016

◇授業期間中の課題：ショート・レポート1回、論文担当1回

◇成績評価の方法：①上記(1)のショート・レポートの提出+討論への参加(30%) ②(2)の担当による発表を一回。以上を必修条件とし(50%)、授業中の積極的な発言や討論への貢献度を20%程度として、総合的に評価する。

◇注意事項：

◇オフィスアワー：随時、下記メールアドレスでアポイントを相談。

◇連絡先 : hoshino@lang.nagoya-u.ac.jp